opusdei.org

第一章:この世界を 愛した司祭 (11Q07)

1. 私は無価値なみじめな者、しかし価値ある愛で一杯の者 (11Q07)

2010/07/15

11Q07 要するに、自己の弱さを把握することで、絶え間ない戦いに奮い立ち、慣れや惰性に陥ったりすることはなかったのですね。

11A07 1950年、二十歳そこそこの私 に師が頼んだことを今でもはっきり と覚えています。神を心から愛して

いる人の自然さで「今日は自分の敬 虔の足りなさを悲しんでいます。償 いをするため私を手伝って欲しいし と言ったのです。このように緊急事 のように頼まれたことは、私の心に 深く染み透りました。創立者は信心 深くなるために、とても努力してい たことを私は知っていましたから。 1953年私たちを次のように励ましま した。「がっかりせずに必要ならい つでも放蕩息子のようにすることで す。始めること。心から痛悔して赦 しを願い、やり直す。これは神なる 主がたいへんお喜びになることで す。神は私たちがどんなものか、よ くご存じですから。それゆえ、いつ も主に立ち戻りなさい。愛を込めて 戻りなさい。神は私たちを待ってお られるのです。

主を益々深く愛するため、絶えず自分への要求を強めていました。1966年、また様々な機会に、次のように話しています。「私たちの生活の超

自然的な意味を糾明しましょう。自 分自身を探しもとめているのではな いか、習慣的になって、主との出会 いを疎かにしているのではないか。 もし習慣的になっているなら、愛が 廃れだしているからです。この主へ の愛こそが、私たちの生活を意義あ るものにし、私たちを本当に役立つ 者にするのです。| 1970年2月14 日、私に言いました。「今日の日 を、よく振る舞おうと決意して始め ました。神の内に深く入り込み、神 の栄光を奪うことのないよう努めよ う。多くの惨めさを持ちながら、こ う決意します。私の惨めさの何と多 いことか。| 間断なく神を捜し求め ようと決心していたのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/dizhang-konoshi-jie-woai-shitasi-ji-11q07/(2025/11/21)